



パネリストは実際に暮らしてみていることを語りました

市は、多文化共生推進事業研修会を3月20日、江刺総合支所で開催しました。基調講演では、ネパール出身のジギヤン・クマール・タパ氏を講師に迎え、自らが感じた自国と日本の文化の違いなど、笑いを交えながら講演。その後のパネルトークでは、市内在住の外国出身者4人をパネリストに、本市に住んでみての感想やそれぞれが感じる本市の良いところなどを語りました。

この日参加した約50人は、今後の活動に生かそうと真剣に耳を傾け、多文化共生社会の実現に向けて理解を深めました。

「外国人から見た日本って？」



支援の在り方を熱心に討論する参加者

市は3月5日、介護や医療に携わる人たちの人材育成や連携強化を目的に、認知症ライフサポート研修会を開催しました。

この日は、市内外で認知症ケアに携わっている医師や看護師、介護支援専門員、介護福祉士など10職種の専門職員43人が参加しました。医療・介護を含めた認知症の人のための総合的支援「認知症ライフサポートモデル」の効果的な活用方法をビデオ上映やグループワークなどを通して学習。その後、連携方法や考えられる支援方法などについて、活発に意見交換を行いました。

「認知症の人への総合的支援を目指し」

地域の窓

このコーナーでは、各自治区の情報を掲載。また、各自治区が抱えている課題などを取り上げていきます。

前沢区

感謝の気持ちを込め、閉校式

平成26年4月の前沢区内7小学校の統合に伴い、3月15日から21日まで、6つの小学校で閉校式が行われました。当日は在校生のほか、卒業生や地域の人など多くの人が参加。懐かしい校舎を巡りなが



【前沢小学校】全員で校歌を斉唱

ら、当時の思い出を語っていました。

閉校式典では、感謝の気持ちを込め、在校生の呼び掛けや、参加者全員での校歌斉唱が行われました。校旗が返納されると、万感の思いがこみ上げ涙ぐむ人も。それぞれの思いを胸に、閉校を惜しみました。



【白鳥小学校】多くの地区民が参加しました



及川哲也水沢総合支所長から記念品を受け取るこうさん

市は、3月に満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。

小幡こうさんⅡ水沢区西上野町Ⅱは前沢区字二十人町に生まれました。小学校の教員だった20歳のとき、同僚の故・量助さんと結婚。2男5女をもうけ、12人の孫と15人のひ孫に恵まれました。教員退職後は、教育委員や民生委員などを務め、地域活動に積極的に取り組みました。

年に1度の子どもたちと行く温泉旅行が楽しみだというこうさん。こ

祝 百歳おめでとう

でいること」です。



家族や親戚に囲まれ笑顔のシヨさん

高橋シヨさんⅡ江刺区豊田町一丁目Ⅱは北上市に生まれ、間もなく家族で江刺区南町に移住しました。昭和11年ごろ、故・中沢善三さんと結婚。1男2女をもうけ、9人の孫と13人のひ孫に恵まれました。

長男の新平さん夫婦が共働きだったこともあり、シヨさんが孫のお世話をしたそうです。読書が好きでシヨさんは、新聞を読むことが日課。誕生会には家族や親戚17人が集まり、孫やひ孫から花束を贈られると「盛大に祝ってくれてありがとう」と笑顔を見せました。



【白山小学校】校旗の返納を受ける小沢昌記市長



【母体小学校】一丸となり取り組んできた母体太鼓を演奏



【古城小学校】5・6年生が別れの言葉を述べました



【赤生津小学校】赤生津子ども神楽の演舞で、感謝の気持ちを表しました